



極東産機株式会社

代表取締役社長 頃安 雅樹 氏

創業以来一貫して開発コンセプトとして「職人さんの手仕事の自動化・省力化」を掲げて置製造装置、インテリア内装施工機器等のオリジナル製品を開発・販売さらには、得意技（コア技術）を活かした各種産業機器や食品機器等へ事業を拡大

PROFILE

1956年生まれ。大学卒業後、1980年科学技術庁(現文部科学省)入庁。同庁科学技術政策局政策課課長補佐を務めた後、88年極東産機株式会社に入社。同年常務取締役、91年代表取締役専務、99年より現職。2005年には株式会社ベルパーク社外取締役にも就任。趣味はクラシック音楽鑑賞、落語・映画鑑賞や、昭和史・上方芸能に関する映像・記録・書籍の収集で、休日は古本・古レコード店をめぐる街歩きをして過ごす。



本社外観

—「ひょうごオンリーワン企業」に認定された感想は如何ですか？

当社では、先代が発明した「自動壁紙糊付機」と「コンピュータ式畳製造システム」という2つの日本初の製品をベースに事業を拡大しました。どちらもそれまで世になかったもので、「ひょうごオンリーワン企業」というコンセプトに沿ったものだと思います。それを、県から公に認めていただいたことは、大変に名誉なことと嬉しく感じています。この気持ちは社員も同じだと思います。

—御社で手掛けている事業をご紹介下さい

当社は、昭和23年、龍野の地で、日本住宅に最も関連の深い畳の製造機器のメーカーとして創業しました。それ以来、今日まで一貫して開発コンセプトに「職人さんが手でおこなってきた仕事の自動化・省力化」を掲げて、伝統技術と先端技術の融合によるオリジナル製品の開発に努めてきました。実際、先ほど申し上げました「自動壁紙糊付機」は、全国シェア9割以上を占めていますし、「コンピュータ式畳製造システム」は、畳製造の全工程の自動化に成功して、職人でなく経営者として畳店を継承できると、大変、喜ばれています。

現在も、こうした企業姿勢を受け継ぎ、全社員が「豊かな生活空間作り」と「快適な職場環境作り」を2本の柱として、畳・襖製造機器、インテリア施工省力機器、カーテン縫製機器、さらには食品機器の開発・製造・販売に取り組み、順調に業績を伸ばしてきました。

さらに近年、長年蓄積してきた縫製・裁断・検尺・塗布等の7つの『コア技術』を活かし、リチウムイオン電池製造

工程の一部の生産設備を受注するなど、数多くのハイテク産業向け生産設備の製作実績があります。これらはいずれも、企画・開発・設計・生産を一貫しておこなう総合力をもった当社が、顧客の要求する仕様に柔軟かつスピーディに対応したものであり、各方面から好評をいただいています。

—御社が大切にしていることは何でしょうか？

先ほども触れましたが、当社は、日本で初めて「自動壁紙糊付機」と「コンピュータ式畳製造システム」という2つの製品を開発しました。これらにより、それまで職人さんの経験と勘に頼っていた仕事が機械化できたことで、大幅な省力化を実現しています。職人さんは空いた時間を有効に使い、例えば営業など『人でしかできない作業や仕事』に専念することが可能となり、仕事量も拡大しましたし、高度成長期の日本の増大する住宅建設需要にも大きく貢献してきました。

こうした創業精神を大切に護り育てるため、現在、3つの経営理念を掲げています。

1つ目は、「商品開発の基本」として、職人さんの手仕事の自動化・省力化により、豊かな生活空間・快適な職場空間を創造する。2つ目は、「販売の基本」として、会社の品質は、人と商品の品質との認識の下、顧客満足による社員満足を達成する。3つ目は、「社員の行動の基本」として、絶えず危機意識を持ち、平素から万全の備えに努めるとともに、情勢の変化を敏感に捉え、迅速かつ柔軟に対応する、というものです。

また私は、社員に「真似はされても真似するな!」と常に言っています。この当社の信念の通りに、今後も、他社にないユニークな製品の開発・製造を行うことで、産業界ならびに地域社会に貢献していきたいと考えています。



「真似はされても真似するな!」をものづくりの信念とする仲間たち



自動壁紙糊付機

—最近、株式を上場されたとお聞きしました

平成30年9月27日に、東証JASDAQスタンダード市場に上場を果たしました。この上場によって認知度が上がったことから、新たな取引先を開拓していきたいと考えています。さらに、関東方面の人材の強化、とりわけ開発人材を獲得することも期待しています。

一方、市場から得た資金は、インダストリーセグメントを強化するために用いています。具体的には、たつの市にある工場の改修と新設を行います。これにより生産の効率化と組立スペースの拡大が可能となり、特に産業機器の生産体制の強化により、これまで生産能力が追いつかないために断っていた案件を積極的に受注することができるようになります。その他の資金は、システムや新製品の開発費用や開発職の人材採用に用いて、さらなる販売体制・開発体制の強化を図りたいと思っています。

—高い技術を維持するために心がけていらっしゃることは何でしょうか？

当社の大きな転機となった「自動壁紙糊付機」と「コンピュータ式畳製造システム」を生み出したのは、先代の社長(故 頃安新)と開発担当常務の2人で、当時、当社の新製品のほとんどがこの2人の手で作られていました。ところが先代が他界したのとほぼ同時に常務も退職したため、大きな2本の柱なしで開発・製作を行わなければならなくなりました。そこで私は、個人ではなく組織で新しいものを生み出す体制づくりを行うこととしました。新製品のニーズの発掘・収集システムと、それを形にする開発推進システムです。

具体的には、前者については、「こんなことが困っている」、「こういうことを何とかできないだろうか」といったよ

TECHNOLOGY

日本初の「自動壁紙糊付機」と「コンピュータ式畳製造システム」で
職人さんを重労働から解放し『人間でないとできない仕事』への専念を可能に

全自動平刺・返縫機両用ロボットVictory(畳製造システム)



二次電池製造用産業機械

—最後に、これからオンリーワンを目指す企業にメッセージを下さい

どんな企業にも長所と短所がありますが、長所と短所は裏表で一体のもので、会社の長所が会社の発展につながり、ひいては企業文化として定着する努力をトップ自らが続けることが、「オンリーワン」につながると思います。

長所を見出し、それを会社の成長とつなげられるようの方針・ないしはスローガン(経営理念等)として、それを毎日のように口に出して、社員に浸透させ、更にはトップの口からでないしは営業社員の口から、取引先にも浸透させることが大切だと考えています。

うなお客様の声に耳を傾けるように社員教育を施しています。営業などでお客様訪問時に聞いたことは、その日のうちにタブレットで本社に伝え、その内容は取締役まで必ずチェックして、確認できる社内情報の共有システムを構築しています。そのようにして集めたお客様の声を全社で共有することで、それに応えた新しいアイデアが社内から出てくることを期待したからで、実際、声に応じて商品化したものも数多くあります。

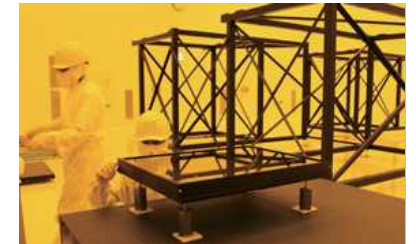
後者については、とかく立場上意見の相違が起こりがちの、メーカーとして不可欠の「開発」「生産」「営業」の3部門をうまく調整して全社で推進する新たな組織を作り、クレーム処理・マーケティングも含めて効率よく推進できるシステムとしました。

—経済産業省の「地域未来牽引企業」にも選定されたそうですね

経済産業省による「地域未来牽引企業」は、地域の特性・強みを生かして高い付加価値を創出し、将来、成長が期待できる分野での需要を地域内に取り込んで経済的な波及効果を及ぼすような地域経済をリードする中核企業を選ばれます。地域内外の取引実態や雇用・売上高を勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれる企業を選定すると聞いていますので、選ばれたことは、大変、名誉なことと感謝しています。しかも今回は、「ひょうごオンリーワン企業」にも選ばれました。これで国と県から認められたことになるわけですから、今後も、それに相応しい企業として、地域のために貢献していきたいと考えています。

日本初の自動壁紙糊付機
(AC-1)

1948年の創業以来、当社は畳製造機械メーカーとして成長を続けてきました。その大きな転機になったのが、71年に完成した、それまでの世になかった「自動壁紙糊付機」の試作1号機でした。ところが、この機械は、現在の軽量機種約34kgと違い、重量も200kg以上あるものでした。しかし、その後、試行錯誤の末、同年暮れに、より軽量化を実現した10台の製品を作り出すことに成功し、これが日本初の自動壁紙糊付機「AC-1」誕生となりました。この機器により、壁紙の糊付作業は自動化され、内装職人はその余力を『人間でないとできない仕事』、『壁紙貼り作業』に振り

ISOクラス6相当のクリーンルームを有する
ハイテク工場

向けることができ、作業の効率化を促し、結果として、壁紙施工量の増大に寄与することに成功しました。また当社は、81年には日本初となる「コンピュータ式畳製造システム」を開発し、それまで職人さんが勘と経験による手作業で行っていた作業の自動化を実現し、その結果、職人ではなく経営者として畳店の後継者になることが可能となりました。これら2つの製品は、日本初の画期的な発明であり、それによって職人さんが、重労働から解放され、『人間でないとできない仕事』に専念できるようにしたのです。

開発に至った経緯

1960年代、日本の生活様式の変化とともに住宅の洋風化が進み、壁紙が多く使われるようになっていきました。しかし、当時は、壁紙を貼る前に、内装職人が手作業で刷毛を使って壁紙に糊を付けていたため、多大な労力がかかっていました。当社では、70年に襖機械の設計依頼を受けたことをきっかけに、壁紙の自動糊付機の開発に着手し、「自動壁紙糊付機」を生み出しました。

一方、「コンピュータ式畳製造システム」は、従来職人が手作業で寸法を測り畳一枚一枚に割り付けて製造していた畳を、1厘すなわち0.3mm単位で製造することを可能にしたことで、畳製造工程に一大革命をもたらしました。その後も関連機器を相次いで開発し、部屋の採寸から割付、裁断、縫着、隅止めに至る畳製造の全工程の自動化に成功しました。

独自性

創業以来の「職人さんの手仕事の自動化・省力化」のコンセプトの下、機械化が困難な職人の世界に挑戦し続けてきたことにより、裁断・検尺・塗布・縫製等の「7つのコア技術(=得意技)」を有しております。「真似はされても、真似するな」の信念の下、独自の発想を基に、何度も試作を繰り返し、現場のニーズ・サイズに的確に応えた機器を世に送り出し、現場に受け入れられました。

今後の展開

畳事業部門においては、1997年から、コンピュータ式畳製造システム導入による「生産の超近代化」とコンサルティング指導による「営業力の強化」を両輪とする「畳店の構造改革」提案をスタートさせており、今日まで全国各地の多くの畳店が構造改革を実践するなど、現在でも業界をリードし続けております。一方、インテリア事業部門においても、お客様の現場でのお困りの声をしっかりと受け止めて、スピーディーに新製品開発へとつなげるべく努力しております。今後も、こうした活動を、さらに進めていき、業界と地域社会の発展に貢献していきたいと考えています。

TOPICS

東証JASDAQスタンダード市場に上場

2018年8月東京証券取引所JASDAQスタンダード市場への上場の承認を受け、2018年9月に、東証JASDAQスタンダード市場に上場しました。これによって得られた資金を工場の拡張や設備の充実に投入し、さらなる事業の展開を図っていきます。



東証JASDAQスタンダード市場に上場

「地域未来牽引企業」に選定

2017年12月、経済産業省より「地域未来牽引企業」に選定されました。これは当社が、地域の特性を生かした、より高い付加価値の創出と地域に対する経済的波及効果を及ぼす企業として認められたからです。今後も、この選定に恥じない活動を続けていきます。



「地域未来牽引企業」に選定

(株)ダスキンと畳替えサービス事業をスタート

当社が従来から実施している「畳替えサービス」事業の新たな実施主体として、(株)ダスキンと契約し、2019年10月21日に、同サービスを開始しました。両社の、これまでの経験やノウハウを活かし、新しい市場の開発が実現することを期待しています。

沿革

- 1948年10月 株式会社龍野ギヤー製作所を設立
- 1966年2月 社名を極東産機株式会社に変更
- 1985年4月 科学技術庁長官賞を受賞
- 1999年5月 ISO9001認証取得
- 10月 頃安雅樹が代表取締役社長に就任
- 2009年11月 神岡工場内にクラス1,000ハイテク組立工場 (ISOクラス6相当クリーンルーム) を開設
- 2011年8月 ISO14001認証取得
- 2013年7月 メガソーラー発電所「三日月サンシャインパーク」を建設
- 2017年12月 経済産業省「地域未来牽引企業」に選定
- 2018年9月 東証JASDAQスタンダード市場に上場

会社概要

所在地 〒679-4195 たつの市龍野町日飼190番地
 電話 0791-62-1771
 FAX 0791-62-1895
 URL <https://www.kyokuto-sanki.co.jp/>

従業員数 275名
 資本金 6億3,111万円
 設立 1948年10月
 代表取締役社長 頃安 雅樹
 上場証券取引所 東証JASDAQ

事業概要

<プロフェッショナルセグメント>自動壁紙短付機などのインテリア内装施工機器、内装工事用テープなどの 副資材・関連工具、コンピュータソフトなどの販売、コンピュータ式量製造システムなどの量製造装置、関連工具・副資材、コンピュータソフトなどの販売
 <コンシューマセグメント>特殊機能量などのインテリア商品の販売、一般家庭向け畳替え・硬替え工事の仲介事業、住宅用・産業用太陽光発電システムなどの販売・施工
 <インダストリーセグメント>顧客の要求仕様に基づくオーダーメイド産業機器の設計・開発・製造、マルチディスプレイ(味噌汁・出汁抽出機)などの厨房用食品機器の販売